

高校生の持続可能な社会の実現に向けた探究学習 (ポスターセッション要旨)

●韓国ドラマから観る男性像は現代に対応した姿であるのか？

私は韓国ドラマを題材に、男性の女性化に焦点を当てて探究学習を行った。韓国の化粧品総合販売ブランドでは「メンズケア」の売り上げが年々上昇しているなど、男性の女性化を確認することができた。また、社会とドラマのジェンダー的な関わりにも注目し、ドラマにはジェンダーを始めとする社会のさまざまな問題を提起し、視聴者により広い視野をもってもらい役割があると考えられるようになった。分析方法は、性格、見た目、役割の3つの視点から男性主人公が現代の多様になりつつある男性像に対応しているかを確認するというものである。性格の面では男性はこうあるべきといったステレオタイプは感じなかったが、役割の面では男性が稼ぎ手という設定も見られた。これらから、ジェンダーの描かれ方には偏りも見られたが、全体的に見ると多様であるという結果になった。

(吹田真唯 弘前中央高等学校)

●京都を訪れる観光客と住民の相互に良い影響を与えるために～交通渋滞問題について～

私は「観光地で観光客が迷惑行為をしている」というニュースを見たことがきっかけで、京都の観光問題に取り組むことにした。今まで観光地として見ていた場所は住民にとっては地元であったということを再認識し、観光地はただの観光地でなく、住民にとっても良い地元でなくてはならないと考え、観光客と住民のどちらにとってもプラスになる観光を実現するにはどうしたら良いかを探究した。そこで、主に京都で起こっている観光公害とその対策について調べたところ、公共交通機関の渋滞などの交通問題が京都市民の生活に強く影響を与えているということが分かった。次に、修学旅行で京都へ行ったときの経験を踏まえて、なぜこのような問題が起こるのかについて考えた。結果として、公共交通機関の受け入れ拡大が不十分であることや、観光客の分散が不十分であることが問題であることが分かった。観光客の分散がこれからの京都の課題であると考えた。

(葛西葉名 弘前中央高等学校)

●美術館や博物館における展示方法について

私は美術館や博物館の撮影禁止マークのような注意書きを分かりやすくし、文化財を守ることと、みんなが安心して鑑賞できる環境をつくることを目指した。まず、展示方法について、現在、東京国立博物館の歴年展示では、撮影禁止の展示物と撮影可能な展示物が混在している。それぞれをブースに分けて展示することで、規則が守られると考えた。次に、マークについて、静嘉堂文庫美術館では、マークが大きく目立つように示されているが、注意書きは日本語と英語のみである。来場数の多い中国人の観光客に対応できるように中国語

なども使用するべきと考えた。質疑応答では、実際にマナー違反をしたことのある方の経験談をうかがった。マナーを認識していても守らない人がいるという視点を新しく得ることができた。今回は外国人観光客を対象に考えたが、今後はマナー違反をする人の背景や現状についてより詳しく分析する必要があると感じた。

(藤田真桜 弘前中央高等学校)

●10～20代の睡眠習慣はSASの発症に関わるのか？

近年、睡眠負債など、睡眠についての問題をよく耳にするため、睡眠について調べることにした。また、以前から興味があった臨床検査技師という職業について調べているうちに、睡眠と職業の双方に関わるSASという病気を見つけた。そして、10～20代の当事者である私たちの睡眠習慣がSASの発症に関わるかもしれないと思った。睡眠習慣とSASの関わりを調べることによって、これからの睡眠習慣を改めるきっかけや、SAS発症への対策や改善を考える機会にもなるのではないかと考えた。そこで、10～20代の睡眠不足がSASの発症に関わるのかを調査するため、臨床検査技師の方にインタビューを行ったり、関連する論文やホームページを読んだりしたところ、睡眠不足がSASの発症に直接関わることはないことが分かった。しかし、肥満で発症する人がいることから、睡眠不足によるストレスが肥満につながり、間接的にSASを発症する可能性があると考えた。

(竹浪英那 弘前中央高等学校)

●みんなが学校に行きやすい環境を作るには？

私は学校に行きたいと思える人が増えるように、学校に行きたくないという人の不安な部分を取り除きたいと考えた。不登校者の数は年々増えていき、高等学校でも1年間で約8000人増えている(2023年度)。関連する論文を読み、「ながらカウンセリング」を知り、高校生の私にもできる「ながらカウンセリング」を自分なりに実践した。実践中、マイナスな考えをプラスな考えに変換したり、相手が話しやすいと思える雰囲気にしたりすることを心がけた。すると、それまでマイナス思考だった人も、「ながらカウンセリング」を行った後はプラス思考になった。このように少しでも不安を取り除くために、学校側の対応以外にも、相談できる友達や身近な人との関係性も必要であると考えた。今後はもっと誰でもできる「ながらカウンセリング」を探し、情報の正確性を上げ、将来にも役立つものにしたい。

(阿部佳歩 弘前中央高等学校)

●献血の推進～16歳からのボランティア～

現在、若者の「献血離れ」が進んでいる。コロナウイルス感染拡大の影響により、学校や会社でリモート授業やテレワークが取り入れられ、献血の機会が減少したこともある。そこで、高校生から献血を行うことができるということを多くの人に知ってほしいと思った。日本赤十字社は、多くの人に若いうちから献血に関心をもってもらおうと、学校献血、献血キャンペーン、卒業献血などを実施している。卒業献血とは、学校に献血バスを派遣し、卒業

を控えた3年生を中心に400mlの献血を募集することで、その後の献血への動機づけにもなる。実際の様子がテレビでも紹介されていたが、400ml献血は一部の生徒しか対象にならないことや、生徒自身の関心が薄いこともあり、弘前中央高校では難しいということが分かった。私はこれまでに2回、献血を行った。10分ほどで終わり、看護師の方も丁寧に対応をしてくださったので、安心して行うことができた。今後は周りの友達にもっと広めて、身近なところから協力を促していけるように活動したい。

(葛西凜々子 弘前中央高等学校)

●恋を实らせる方法

近年、独身のまま生涯を終える孤独死が多いこと知り、恋愛することが解決策になるのではないかと考えた。恋愛をすることで孤独死を減らすことができれば、自分自身の成長にもつながると思った。そこで、心理学の側面から恋愛について調べるとともに、アンケートを行って、身近な人の恋愛はどのように考えられているかを調査した。調査にあたり、「恋愛」と「愛」の違い、恋愛の心理学、SVR理論、愛の心理学、愛の三角理論などについても調べた。10人にアンケートを取ったが、結果としては、回答がバラバラでまとめることができず、高確率で成功する方法は見つからなかった。考察としては、人によって恋愛の価値観などが違うため、全員が成功する方法を見つけることは難しいので、タイプ別に分けると確率が上がると考えた。発表を終えて、やはり恋の話に興味がある人が多いということが分かった。意外と心理学の効果などを意識していない人が多く、学びになった。恋愛心理学で行動できることをもっといろいろな人に知ってほしいと思った。

(藤田徠夢 弘前中央高等学校)

●廃棄されるりんごの活用方法～りんごの美肌効果とは？～

このテーマを設定した理由は、第1に、青森県の特産物の一つであるりんごを廃棄処分から守りたいと思ったからである。多くのりんごが、傷、日焼け、形など、見た目だけで売り物にならず、中身の味は変わらないのに、廃棄処分となっている。そこでSDGsの観点から、りんご農家の力になりたいと思うようになった。第2に、母親が、肌が弱くて困っているのを身近で見えてきて、悩んでいる人の力になりたいと思うようになったからである。将来は化粧品の開発担当者になり、りんごの美肌効果を活用して人の役に立ちたいと思うようになった。これらのために、今後、りんごの高度利用化を促進し、大好きな青森県の地域活性化に携わることができるようになるために、さまざまな知識を取り入れていきたい。りんごの特性が失われることなく、特性がそれ以上に活かせるように、りんごに何が最も適しているのか、実験を通して研究し、商品化に向けて突き進みたい。

(白戸杏樹 弘前中央高等学校)

●スピーキング力の向上

私は英語が話せるようになると将来役に立ちそうだと思います、以前、実際に海外の方と交流

してみたが、自分が思っていた以上に英語を話せなかったのが悔しかったので、スピーキング力の向上というテーマに取り組むことにした。目標は、英語でコミュニケーションをとるときに困らないくらいのスピーキング力を身に付けることである。そこで、第 1 にドラマや映画に字幕を付けてセリフを真似してみることに、第 2 に英語で独り言を言うようにすること、第 3 にアプリを使って外国の方と友達になり、電話で会話をする、第 4 に自分の好きな歌を真似して歌うことに取り組んだ。結果としては、セリフや歌詞を真似て歌うことで、言い方やアクセントが改善された。また、分からなかった単語を随時調べてメモを取ることが大切である。考察としては、英語で話す、英語を聞く、英語に触れる環境を増やし、一人でも楽しく継続していくことが大切であると思った。

(板垣惺那 弘前中央高等学校)

●医療的ケア児の保育園入園を実現させる方法とは？～インクルーシブな社会を目指して～

医療的ケア児が保育園に通うインクルーシブ保育の最大のメリットとして、新たな発見につながる、刺激的な体験ができることがあげられる。そこで、医療的ケア児の受け入れの現状を調べると、都市部と地方で地域格差が生じていることが分かった。また、保育士 3 名に聞き取り調査をすると、保育士にとって、保育園に看護師がいることは心の支えであると同時に、医療的ケア児を受け入れる上で大切であることが分かった。一方で、受け入れにあたっては保育園に配置される看護師の不足が解消されないことから、受け入れが難しいという課題が明確になった。そこで、どうすればインクルーシブ保育が実現するかについて調べたところ、研修を受けると看護師でなくても医療的ケアを行うことができること、青森小児在宅支援センターでは医療的ケア児の支援を行っていることが分かった。以上より、今後は医療的ケア児について社会全体での意識を変えていく必要があると感じた。社会との接点を作ることで、インクルーシブな社会の実現につながっていくと思った。

(齋藤真央 弘前中央高等学校)

●デジタル化の功罪～新聞記事からの考察とアンケート報告～

近年、暮らしのデジタル化が急速に進展している。今回はデジタル化に関する最近の新聞記事を紹介しながら、デジタル化の功罪について報告した。DX の進化はめざましい発展を遂げつつあり、社会構造も変わってきている。しかし、影の部分として、電力使用量の増大、ニセ情報、怪しい広告などに惑わされることも増えた。そこで、消費者は暮らしの中でデジタル化をどのように利用しているのか、それらをどのように感じているのかを知るために、青森県消費者大会（2024 年 11 月 6 日）の会場でアンケート調査を行った。回答者は 75% が女性で、80% 以上が 50 代以上であった。その結果、マイナ保険証の利用割合が全国平均よりも高いことが分かった。また、デジタル化からメリットもデメリットも受けている様子がうかがえた。メリットとして、便利さや手軽さが評価され、デメリットとして、データ漏洩などのリスクなどが挙げられた。

(坂本久美子・加藤徳子 青森県消費者問題研究会 [特別参加])